

スポーツ博物館

[博物館・図書館案内](#)[常設展示場](#)[所蔵品の紹介](#)[スポーツと芸術](#)[スポーツの歴史](#)[小中学生向け案内](#)[来館記念品](#)[スポーツ図書館OPAC](#)[スポーツ文化](#)[博物館ニュース](#)[スポーツのココロ](#)[刊行物](#)[国立電ヶ丘競技場](#)[国立代々木競技場](#)[トップページ](#) > [スポーツのココロ](#) > 第4回

スポーツのココロ 第4回

さわって感じるボールの世界

前回お約束しました、特別企画展「ぼーる BALL ボール」の見どころですが、貴重な「お宝」の数々については[博物館ニュースの第26号](#)でじっくりとご紹介しましたので、今回は、じかにボールに触れて体験するコーナーを、のぞいてみることにしましょう。

今度の展示会の資料のなかで一番大きいボールはキンボール。カナダで20年ほど前にマリオ・ドゥマースという若い体育の先生が、カナダの若者のスポーツ離れを食い止めようということから考案した新しいスポーツです。

名前の由来は、「運動感覚」を意味する英語のキネスティス、ギリシャ語のキネーティコースの前半分とボールとを組み合わせたものです。

その後、アメリカ、フランス、ドイツ、スペイン、ベルギーなど、いろいろな国に広まり、日本に入ってきたのは1997年のことです。

まず、なによりも直径122センチという大きさが目を引きます。重さは約1kgで、軽くてふわふわとした感じです。

この大きなボールを用いて4人一組の3チームの間でバレーボールのようにサーブやレシーブをするのですが、サーブのときに「オムニキン」と大きな声を出さなければなりません。

勝敗は偶然に支配される要素も多く、たいへん楽しいゲームです。大きさのインパクトが、子どもたちにたいへん強い印象を与えているようです。

詳しいルールなどについては[日本キンボール連盟のホームページ](#)などをご覧ください。

一方、一番小さいボールはというと、スカッシュとバスケットピンポンでしょう。スカッシュについては、TVや本、雑誌などを通じてどんなスポーツかご存知の方



も多いと思われるので、ここでは、ちょっとめずらしいバスケットピンポンをご紹介します。

このバスケットピンポンは、和歌山県在住の作曲家の北原雄一さんが40年ほど前に考案した省スペース型のミニ卓球です。

幅60センチ長さ120センチの小さなコート両方の端にバスケットのついた小さな穴が開いていて、ルールは卓球とほぼ同じですが、ボールが相手側のバスケットに入ると2点を獲得、1セット11点で2セットを先取した方が勝ちになります。

その他、サーブはラケットを持つのと反対側の手で自分のコートにワンバウンドさせるように投げるとか、細かいルールはいろいろとありますが、体をそれほど激しく動かさなくても、楽しく競い合うことができるゲームで、展示会場の中で最も人気のあるゲームのひとつです。

大きい方と小さい方の代表として、二つの種目をご紹介しましたが、展示場の中のボールゲームは、この二つにとどまらず、楽しい種目がたくさんあります。

こうした「ニュースポーツ」のゲームの入門講座を11月26日(土)、27日(日)の2日間にわたって開催します。

26日はキンボール、ティーボール、ペタンク。

27日はシャトルボール、タッチラグビー、ニチレクボール。

詳細は、[「ニュースポーツ ボールゲーム体験講習会」のお知らせ【PDF】](#)をご覧ください。

ということで、11月最後の土曜、日曜は、博物館のニュースポーツ入門講座に遊びに来るのココロだあ。



[↑ページの最上部へ](#)